

### 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：既存浄化施設における地域連携と新たな価値の創造		
水系/河川名：利根川水系 霞ヶ浦	河川分類：その他	
河川の流域面 2157	整備計画流量：-m3/s	セグメント：0
事業：維持管理	事業開始年度 平成3年度	
目標設定：定性的	段階：0	
課題・目的(主な)：水環境改善、その他		
工法(主な)：その他		
配慮事項(主な)：その他		

#### 背景・課題、目標設定

##### <背景>

霞ヶ浦では、昭和40年代から流域人口増加とともに水質悪化が課題となり、様々な浄化対策が進められてきた。その対策の一つとして清明川植生浄化施設は、流入河川からの汚濁負軽減を目的に整備されたものである。(平成8年完成) 施設は、清明川河口部に設置したポンプから水路に水を流し、さらに水路から植生帯を通し、窒素やリンなどを除去するものである。



##### <課題>

施設運用後約15年が経過した平成22年、ポンプが老朽化して更新に多大な費用を要することと、清明川の水質が改善傾向で浄化効果も薄れてきたことから、運転を停止することとなった。

しかし、植生帯は乾燥化や樹林化が進行し景観も悪化していく中で、**せっかく整備した施設を廃止にすべきか、新たな利用方法はないのか、方向性を模索していた。**

##### <目標>

河川協力団体からの要望も契機となり、以下を新たな目標として平成29年に施設を再稼働した。  
(水路に水を流し、水が動くことで生き物が豊かになる！)

- ①維持管理活動と生物観察の実施
- ②環境学習での利用と人材育成  
(河川協力団体と連携して実施)

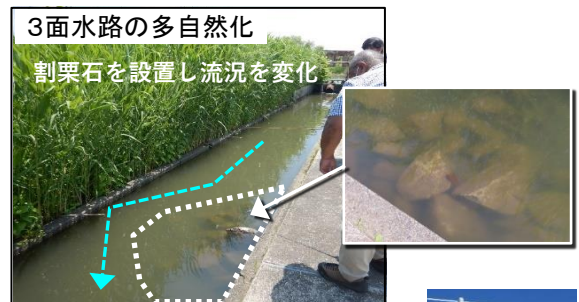


- 期待する効果
- ・生物多様性の向上
  - ・霞ヶ浦の魅力や環境保全への理解促進
  - ・地域連携の強化等

#### 取り組み内容・対策例 (1/2)

##### <①維持管理活動と生物観察の実施>

10名程度が毎月2回、維持管理作業や生物観察に参加



取り組み内容・対策例(2/2)

＜②環境学習での利用と人材育成＞

環境学習で、釣り教室、ライジャケ着用方法、水質調査、プランクトン観察を実施し、水辺環境を体験



参加者アンケートでは、満足度が100%!

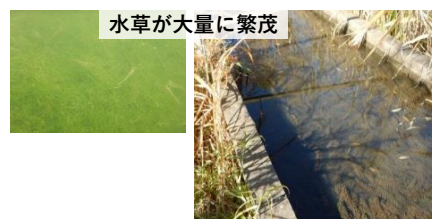
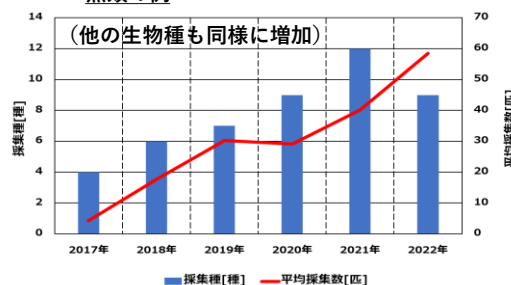
(初めての魚釣りで30匹も釣れた! 霞ヶ浦の水質や環境に興味を持った! また開催して欲しい! 等、嬉しい声が多数)

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

＜結果と効果 ⇒ 今後の展望＞

- 水路への通水、流況変化、ポンプ間欠運転による水位変化等により、生物数が増加傾向、水草も大量に繁茂してきた。  
⇒ 水が動くことで生物多様性向上の効果を実感できた。(今後、湖内への拡大も期待)
- 環境学習や火入れは、地元の阿見町や茨城県も参加し、行政間の連携や情報共有が図られた。  
⇒ イベント参加者全員に喜んで頂けたことは、今後の広報等の取り組みを考える上での励みになった。  
⇒ 多くの方に霞ヶ浦へ興味をもってもらうことや、維持管理に関わる人材等を拡大していきたい。

魚類の例 採集種と平均採集数

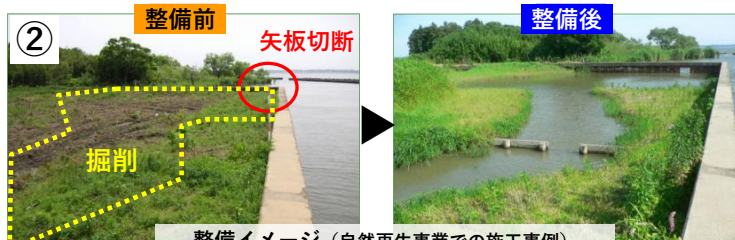
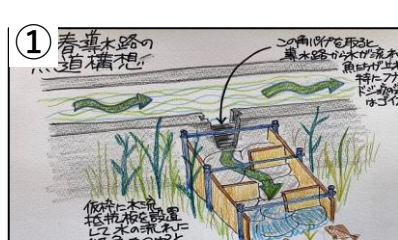


＜アピールポイント＞

- 廃止になりかけていた施設で、水路は単に水を流すための役割しか考えていなかったが、生物多様性の向上、環境学習での利用、人との関わりなど、新たな利用価値と効果を再発見できた。

＜今後の対応方針＞

- 令和5年1月に、「水辺の小さな自然再生現地研修会」(現場での技術力向上の場)を開催!  
⇒ 水路と植生帯を生物が移動できるように、魚道を手作りする予定(①)
- 乾燥化、樹林化した植生帯を多様な湿地環境へ再生するため、矢板切断や掘削などの実現可能性を検討していきたい。(②)



- 他の水辺施設・自然再生事業実施箇所等でも維持管理がままならない状況もめるため、柔軟に多様な視点を持って、新たな利用価値や効果を考えていきたい。

備考

- 多自然川づくりや自然再生は、主に個別箇所での施工方法や評価が対象であったが、近年は、グリーンインフラ・カーボンニュートラル・30by30・OECM・ネイチャーポジティブなど、より大きな視点での生物多様性に加えて、経済性の評価も併せて考える動きが盛んになりつつあるため、今後、霞ヶ浦においても、こうした観点で場の評価や価値向上についても検討していきたい。

問い合わせ先 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所 調査課

電話番号 0299-63-2415